

慶應義塾で人材育成につとめ、「学問のすゝめ」「西洋事情」など多数の著書において個人や国家の自由・独立を主張した福澤諭吉は、中津藩・下級武士の末っ子として生まれた。幼くして父を失い、母の手ひとつで育てられるが、その両親とはどんな人物だったのか。それがのちの諭吉の思想にいかに関与を与えたのだろうか。

福澤諭吉

偉人の母

西澤直子

慶應義塾福澤研究センター 准教授

諭吉の両親について

福澤諭吉は1835年、父・百助と母・お順との間に生まれた。百助は中津藩の下級武士であった。お順と結婚した年に大阪勤務を命ぜられ、最初は単身で赴任するが、足かけ五年目にお順は夫のもとへ行き、大阪で2男3女を授かる。諭吉はその末っ子であった。

百助の職務は物産の売り捌きであったが、その実、幕末の藩の財政状況は厳しく、大阪の豪商からの借

自由と独立心を育てた「母の感化力」



オランダの福澤諭吉（横浜開港資料館所蔵）